

20歳から59歳までの1,032名に聞いた「”がん”に関する意識調査」

～治療費に対する意識と実態にはギャップが生じている可能性～

東京海上日動あんしん生命保険株式会社(社長 北沢 利文)は、この度20歳から59歳までの男女1,032名を対象に「”がん”に関する意識調査」を実施し、調査結果の概要をまとめましたのでご報告いたします。今回ご紹介させていただくものは、調査結果の一部であり、調査の全体像や調査方法の詳細は「あんしんセエメエの健康・長生き学園」(<http://www.anshin-gakuen.jp>)内にある図書館の「調査結果について調べる」に掲載しておりますので、是非ご覧ください。

1. 治療費に対する意識と実態にはギャップが生じている可能性

- 入院期間の短期化や通院治療の増加について、多くの方が認知されています。(別紙Q1～Q2)
- 「がんの平均の治療費が100万円といわれたら、あなたはどう思いますか」という質問に、「思っていたより高い」と感じる方が約60%を占めました。がんの治療に充てることのできる資金(がん保険の保険金を含む)は、「100万円未満」と回答した方が約60%に上っています。実際の治療費と個人が準備するお金の額にギャップが生じている可能性があります。(別紙Q3～4)
- また、保険(医療保険・がん保険)に加入していない方に限定した場合は、がんの治療で使うことのできる資金が「100万円未満」とする方が約77%に増え、うち「50万円未満」と回答した方は約44%にも上ります。比較的長期間に亘る抗がん剤治療を行う場合等には、治療費が十分に賄えなくなるおそれがあります。(別紙Q4)

2. がん罹患時の経済的な負担や家族への負担は肉体的な苦痛と同じぐらい不安

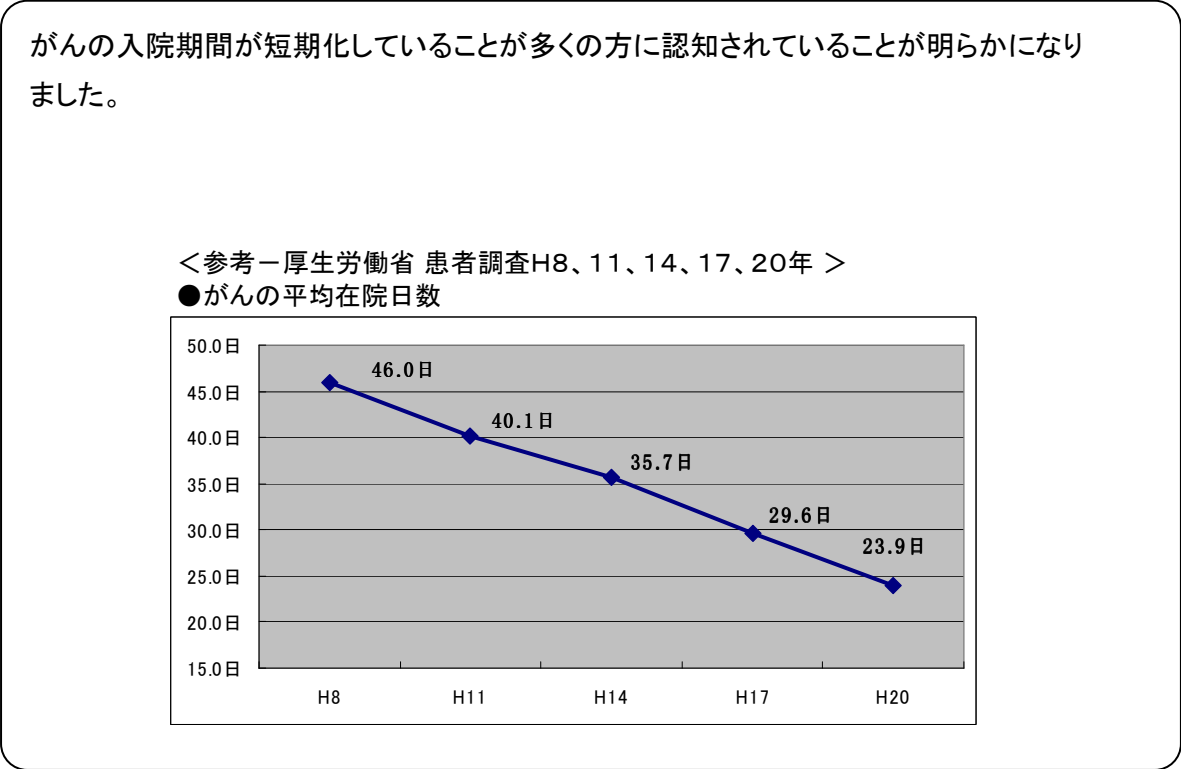
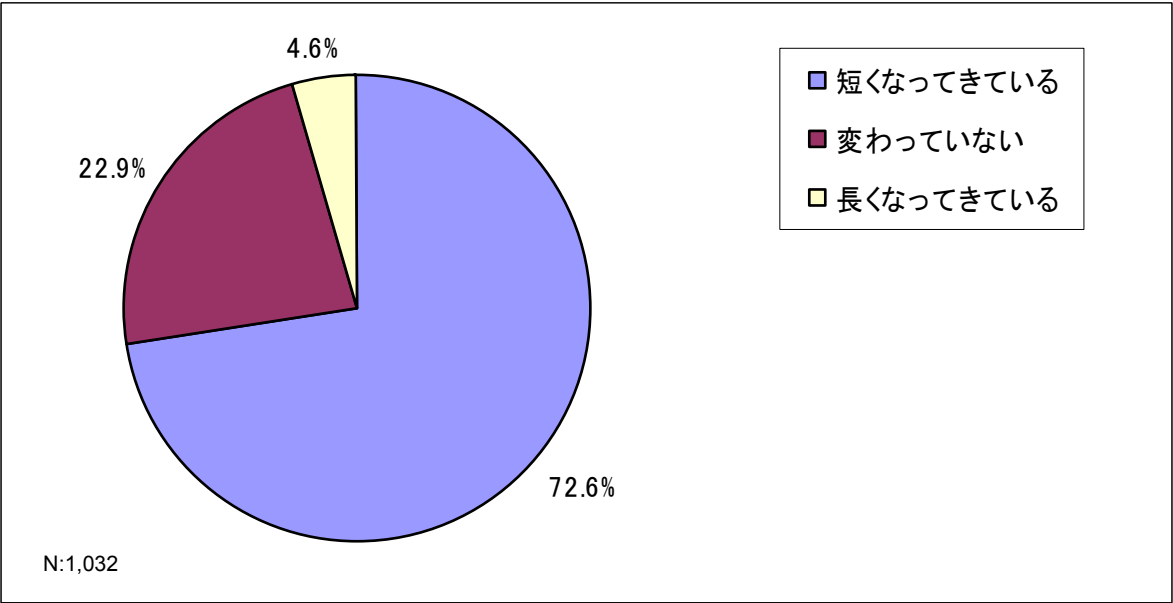
- がん罹患することを「怖い」と感じる方は約9割に達しています。(別紙Q5)
- 「怖い」と感じる理由で、肉体的な苦痛と同じぐらい経済的な負担や家族への負担を怖いと感じていることが分かりました。(別紙Q6)

3. 自分の治療と家族の治療に対する意識の違い

- 自分の治療について「高額でも受けてみたい」と考える方は1割未満にとどまる一方、家族には「高額であっても受けさせたい」と考える方が約半数に上っています。(別紙Q7～Q8)
- ただし、先ほどの調査結果の通り、治療費の準備は100万円未満の方が多実態です。したがって、家族に治療を受けさせるために借入れ等を行うとの話しも聞かれることから、がんへの備えは、『万一の際の家族の思い』も加味した上で、行う必要があると思われます。

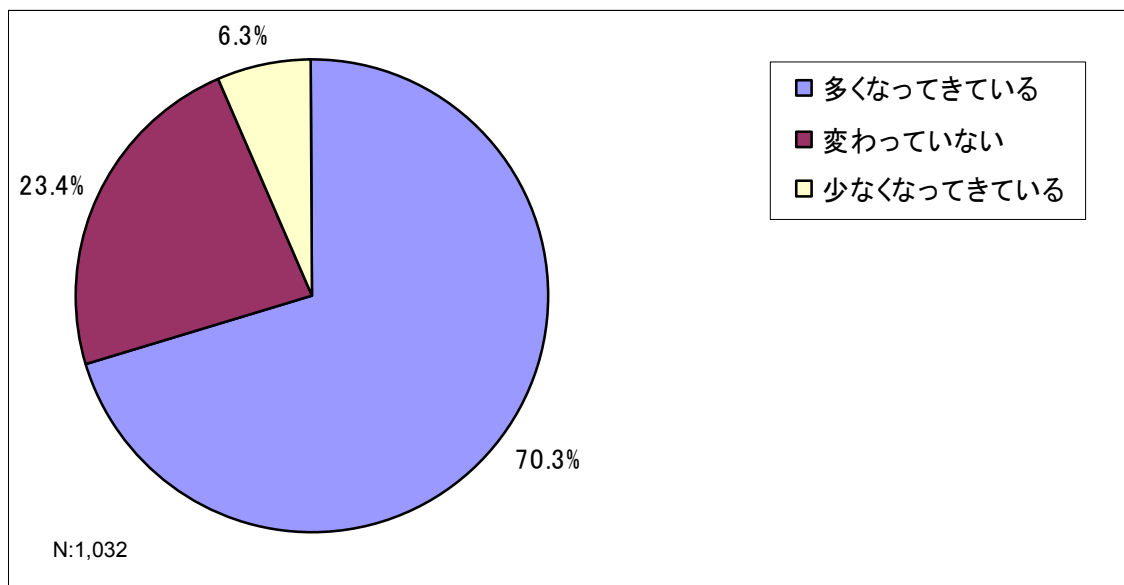
以上

Q1 近年、「がん」の入院期間はどのようになってきていると思いますか。



Q2

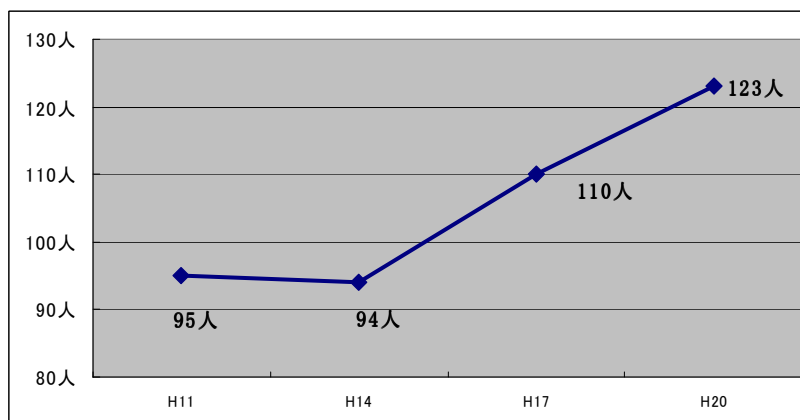
近年、通院による「がん」治療はどのようになっていると思いますか。



がんの通院治療が増加していることが多くの方に認知されていることが明らかになりました。

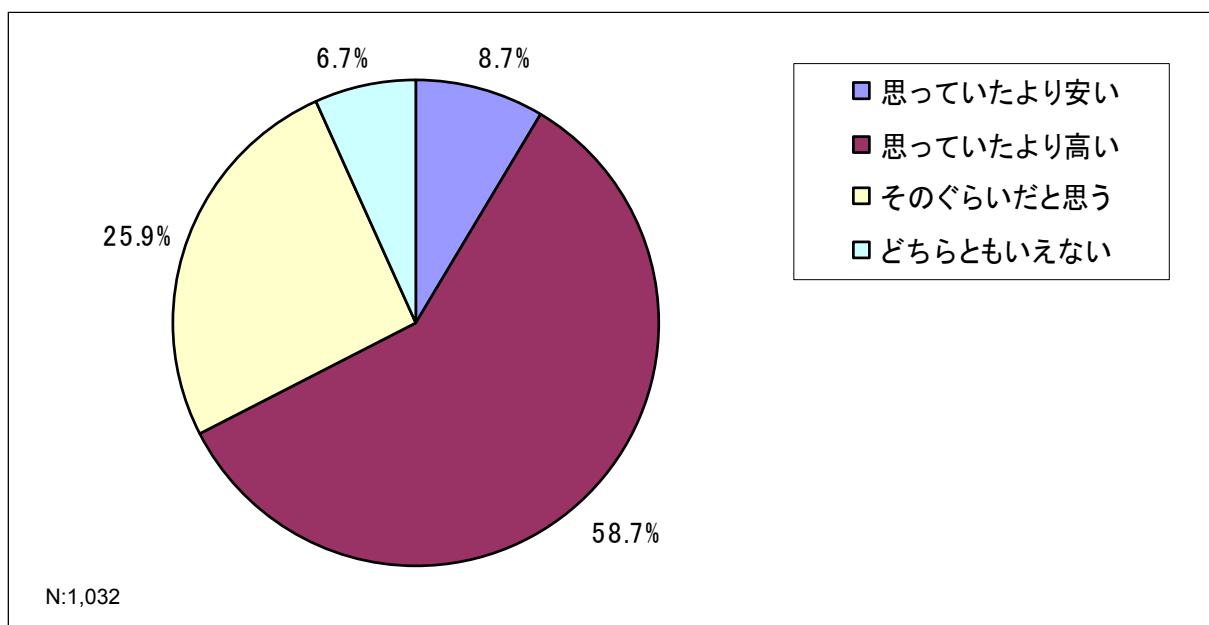
<参考—厚生労働省 患者調査H11、14、17、20年 >

●がんの外来受療率(人口10万対)



Q3

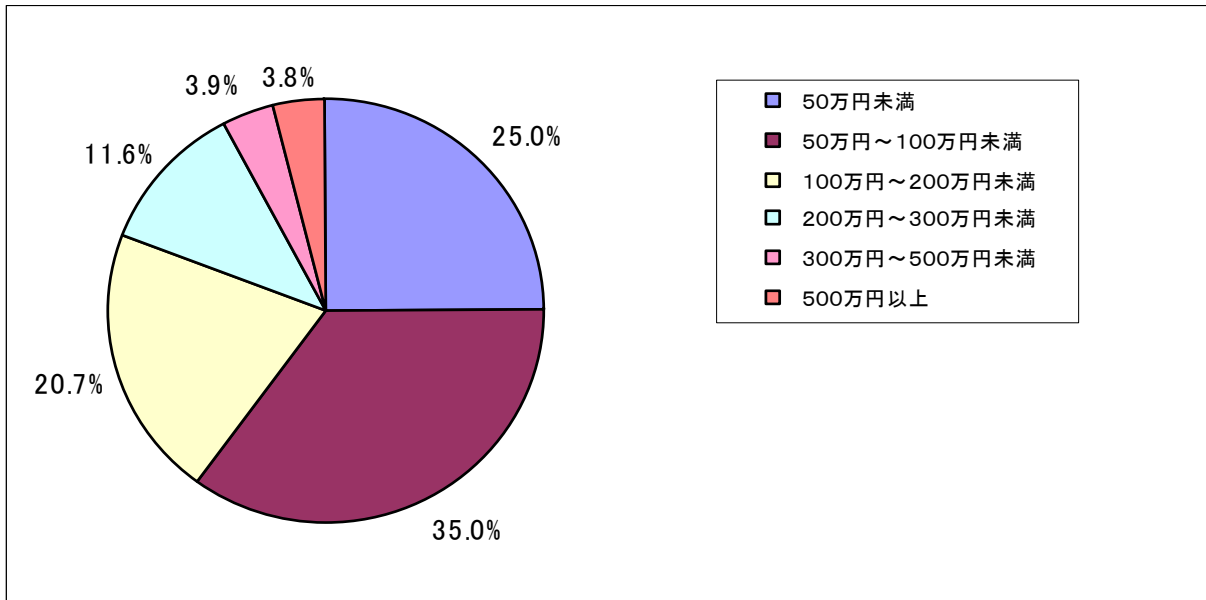
「がん」の平均の治療費が100万円といわれたら、あなたはどのように思いますか。



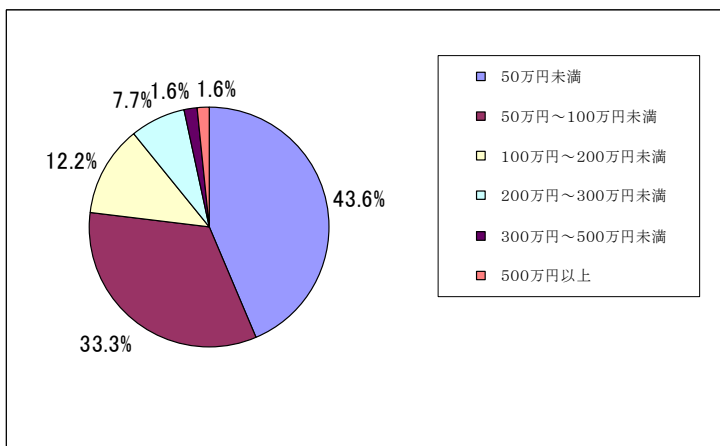
がんの治療費が平均100万円と言われると大半の方は思ったより高いと感じていることから、一般の方がイメージする治療費と実態にギャップが生じている可能性があります。

Q4

もし、「がん」になったら治療費としていくらまで使うことができますか。
(がん保険の保険金なども含めてお考えください)。



↓ 保険に加入していない方に限定した場合



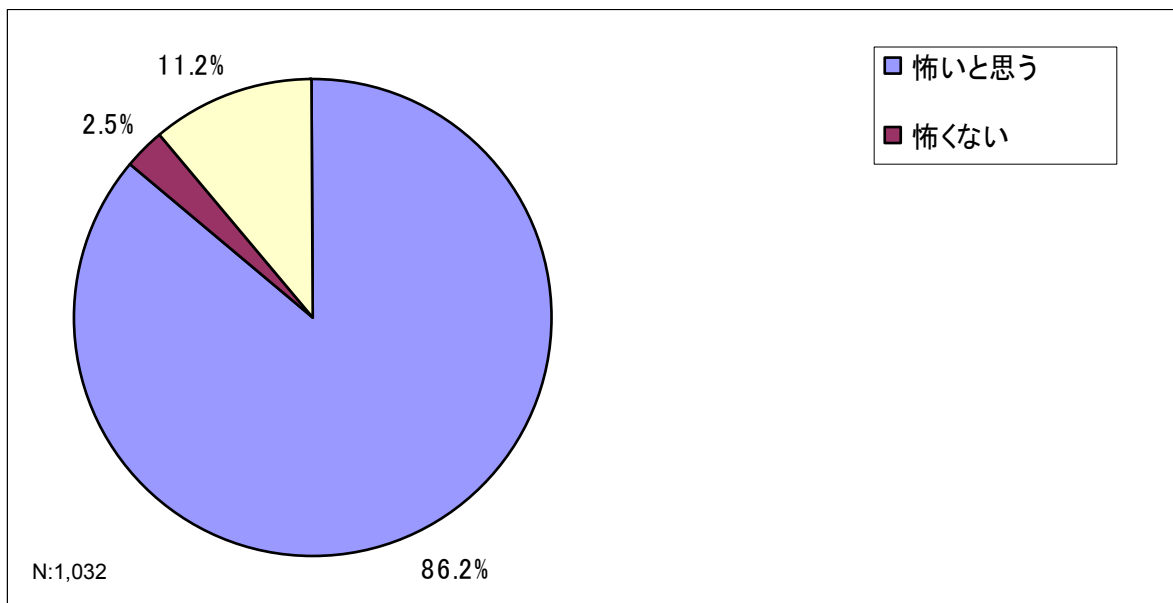
50万円以上100万円未満と回答した方が最も多く、また、50万円未満と回答した方と合わせると全体の6割に達しています。

Q3においてがんの治療費として100万円は「思っていたより高い」と回答した方が多くなっていましたが、それを裏付けるように、がんの治療費として利用できる資金も100万円未満と回答する方のウエイトが高くなっています。

また、保険に加入していない方は、加入している方と比べてがんの治療に充てられる資金は少ない傾向が見られます。

Q5

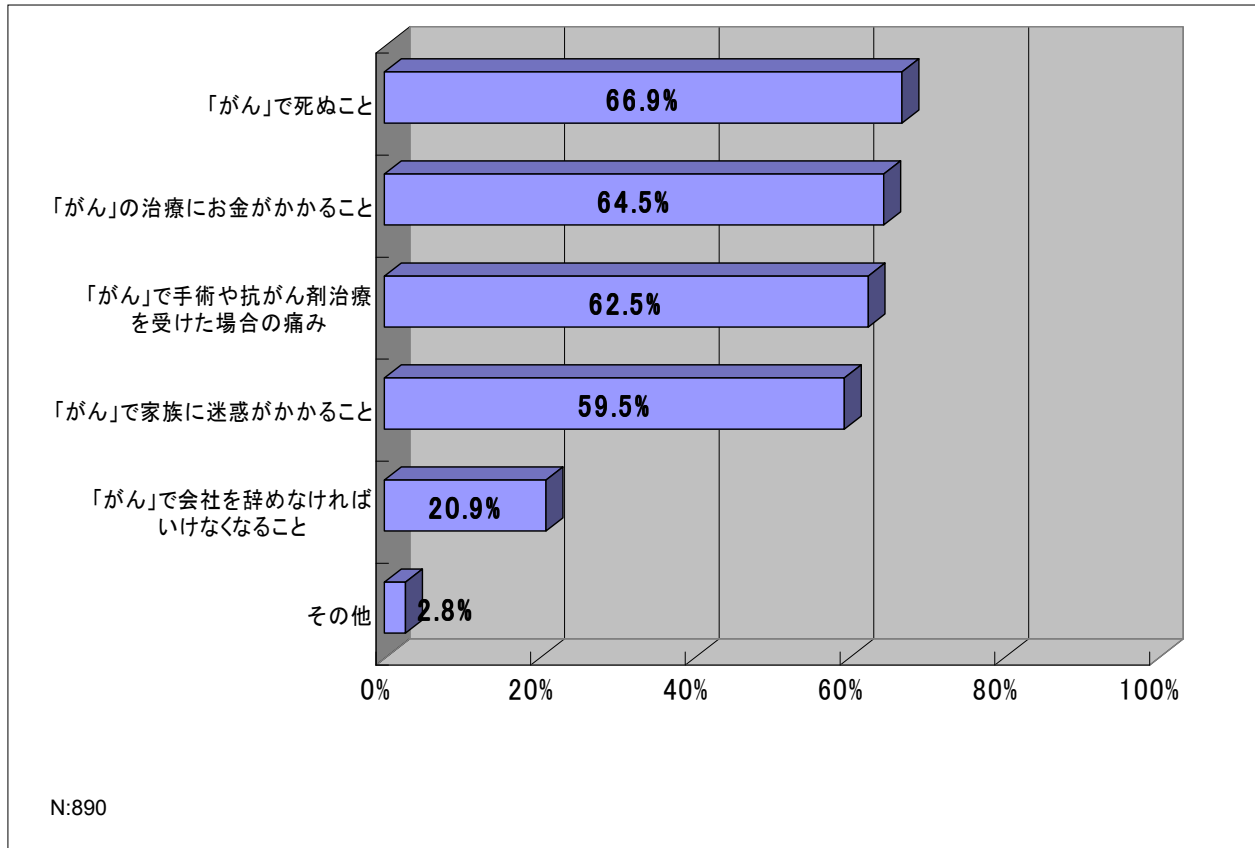
「がん」は怖いと思いますか。



全ての年代においてがんは怖いと思っている方が圧倒的に多くなっています。

Q6

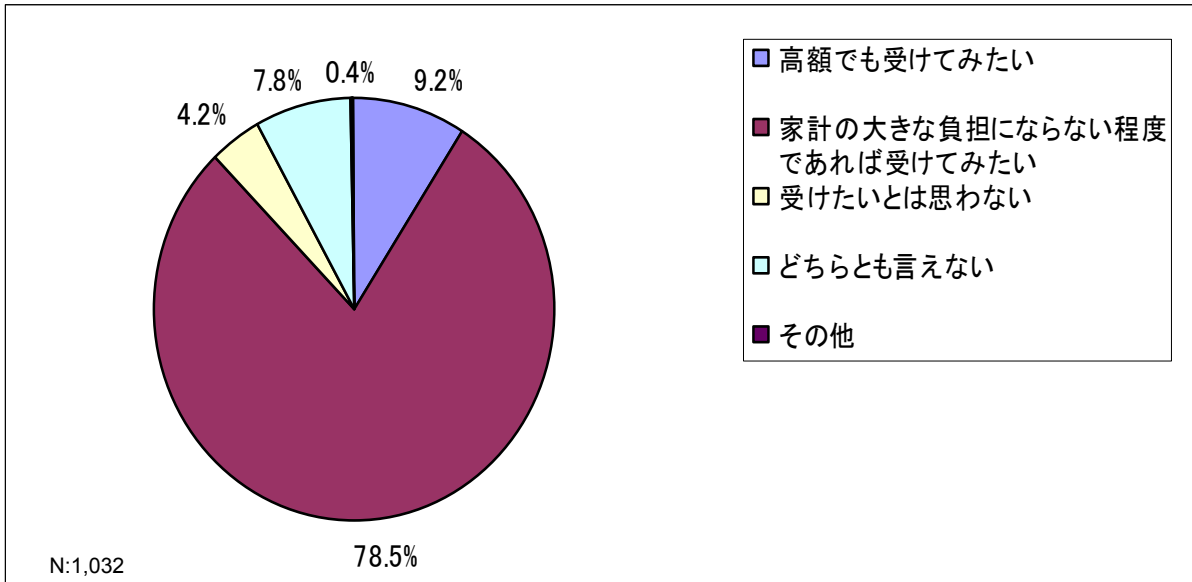
Q5で怖いと答えた方にうかがいます。
「がん」で怖いことは何ですか。(複数回答可)



「がんで死ぬこと」や「がんで手術や抗がん剤治療を受けた場合の痛み」などの肉体的な苦痛だけではなく、「がんの治療にお金がかかること」や「がんで家族に迷惑がかかること」など、様々な面でがんに対する不安を持っていることが分かります。
また、ウエイトは大きくありませんが、がんに罹患したことにより、会社を辞めなければいけなくなることを不安に思っている方が一定程度いることが注目されます。

Q7

自分が「がん」になったら、有効な治療法であれば、健康保険の対象外であったとしても受けてみたいと思いますか。

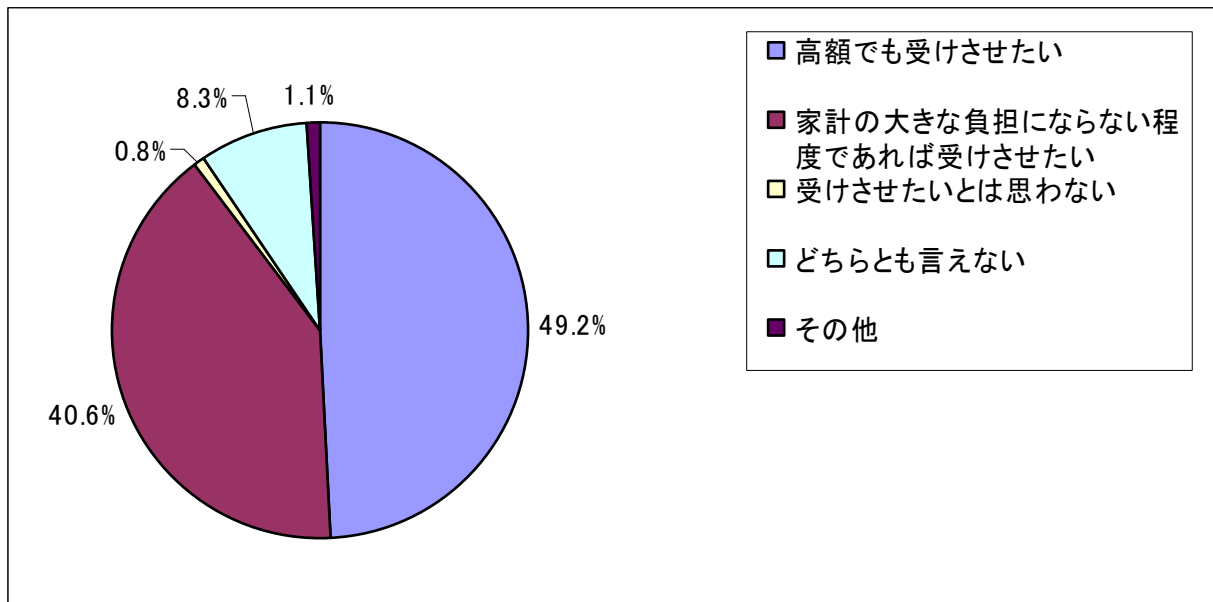


自分のがんの治療については、健康保険の対象外の治療法であっても「家計の大きな負担にならない程度であれば受けてみたい」との意見が圧倒的に多くなっています。

一方、「高額であっても治療を受けてみたい」との意見は1割未満となっており、家計を圧迫するのであれば、有効な治療法であっても当該治療を受けることを遠慮するとの心理がうかがえます。

Q8

自分の家族が「がん」になったら、有効な治療法であれば、健康保険の対象外であったとしても受けさせたいと思いますか。



Q7と異なり、家族の治療であれば、「健康保険の対象外の高額な治療であっても受けさせたい」と考える方が多いことがうかがえます。